

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 9 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	3170201184		
法人名	フォレストバレー 株式会社		
事業所名	グループホーム東福原の家		
所在地	鳥取県米子市東福原7丁目10-35 (電話) 0859-38-0050		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年9月4日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費による 円
敷 金	有(165000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(165000円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1000 円

(4) 利用者の概要(7月 31 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤クリニック、ふれあいクリニックやざき、小徳歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣には学校がまた田や畑もまだ残っている静かな住宅街に位置するホームは、建築会社の有志が集まり平成16年6月に開設された。
ホームの構造は1階建ての木造りとなっており、廊下には自然光を取り入れるため作られ窓から差し込んでくる光が室内を明るく、温かみを感じさせるホームになっている。
ホーム長、介護支援専門員また他の介護職員もよりよいケアを目指して、昼食後ほぼ毎日行われるミーティング及び毎月の職員会議で、日頃のケアの振り返りから理念である「入所されている皆様が、生きがいをもってその人らしく生活出来る様に支援させて頂き、共に生きる」をどのように具現化していけばよいか管理者が話し常に職員間で意識できるようにと努めている。
職員もグループホームの特性を活かし安心して暮らしていただけるよう、日々の入浴、食事等個々の生活ペースにあわせ家庭的な雰囲気を守りながら、「共に生きる」を念頭にケアにあたっていることが感じられ今後の更なる発展が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で課題であった研修は、管理者の個別面接から2名研修担当が必要に応じて各種研修をコーディネートし、研修後は研修報告書の回覧及び職員会議で伝達を図って行われている。 今後は新任職員・中堅職員など職員の一人ひとりの経験や習熟度等に応じ、段階的な研修参加・年度計画等の取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>訪問調査の時にホーム長、介護支援専門員また事務長なども同席し、全職員が参加し評価・改善に取り組んでいる姿勢が伺われる。管理者及び介護支援専門員が、職員へ自己評価・外部評価の意義を話し、全職員が参加し自己評価に取り組んでいる。1階の避難路の改造など指摘があった事項に関しては、順次検討し改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市の担当者へ空き部屋があった場合はFAXにて連絡、ホームで行事がある際には少しでも様子を見てもらうため連絡し見学を呼びかけている。またホームでの困難事例等があった場合には迅速に相談等行い連携を密にしている。 運営推進会議は定期的に開催されていないので、地域の理解と支援を得るための場として、ご家族、地域及び行政等の方へホームの様子を見ていただく機会、また率直な意見をいただける機会として、日々の業務で大変な面は多々あるかと思うが、定期的な開催への取り組みを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会は頻繁にあるとのことで来訪時に近況報告や、毎月送付する利用料請求書にホームでの様子や行事の予定記載して家族へ伝えている。介護支援専門員の離職があり、7月に新任の介護支援専門員が約2週間かけて全家族宅を訪問しあいさつを行ったとのことで家族とのコミュニケーションに努めている様子が伺える。今後は家族会の開催など更なる取り組みが期待される。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃は入居者がホームの畑に出かけた際は、地域の方に声をかけてもらったり、ホームの開設周年祭には地域の方も招待、また公民館には入居者の作品も出展するなど交流に努めている。 自治会には未加入とのことであったので、現在は休刊している広報誌を季刊等からでも始められ自治会の回覧板で廻してもらうなど、ホームの様子等を伝える取り組みを期待する。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である、「入所されている皆様が、生きがいをもってその人らしく生活出来る様に支援させて頂き、共に生きる」を实践すべく、入浴、食事等個々の生活ペースにあわせ家庭的な雰囲気をまた、地域とのふれあいを忘れず「共に生きること」を念頭に日々のケアにあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昼食後ほぼ毎日行われるミーティング及び毎月の職員会議で、日頃のケアの振り返りから理念をどのように具現化していけばよいか、管理者が話し常に職員間で意識できるようにと努めている。また、「共に生きること」を念頭に職員もグループホームの特性を活かし安心して暮らしていただけるよう日々のケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃は入居者がホームの畑に出かけた際は、地域の方に声をかけてもらったり、ホームの開設周年祭には(食事の手伝いに会社の理事等もかけつける)地域の方も招待、また公民館祭には入居者の作品も出展するなど交流に努めている。	○	現在は休刊している広報誌を季刊等からでも始められ、自治会の回覧板で廻してもらい、ホームの様子等を伝えるなどの取り組みをしてみてもどうか。 また、今後はホームの機能を生かして地域の介護の相談窓口としても活動したいとのことであったので、自治会に加入され活動の場を広げられる取り組みを期待します。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び介護支援専門員が、職員へ自己評価・外部評価の意義を話し、全職員が参加し自己評価に取り組んでる。指摘があった事項に関しては順次検討し改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催しているが、昨年11月と今年6月のみの開催で定期的な開催には至っていない。(また、運営推進会議のメンバーは確認できたが、その話しあった内容等の議事録は所在が不明で確認できなかった)	○	(会議の内容など話す議題が絞らざらくあまり開催されていないのであったが)地域の理解と支援を得るための場として、ご家族、地域及び行政等の方へホームの様子を見ていただく機会、また率直な意見をいただける機会として、日々の業務が大変な面は多々あるかと思いますが、会議の開催がすこしでも多くなることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	米子市の担当者へ空き部屋があった場合はFAXにて連絡している。(また、ホームで行事がある際には少しでも様子をしてもらうため、連絡し見学を呼びかけている)ホームでの困難事例等があった場合には迅速に相談等行い連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会は頻繁にあるとのことで来訪時に近況報告や、毎月送付する利用料請求書にホームでの様子や行事の予定記載して家族へ伝えている。介護支援専門員の離職があり、7月に新任の介護支援専門員が約2週間かけて全家族宅を訪問しあいさつを行い家族とのコミュニケーションに努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があった場合はで昼食後のミーティング等で迅速に話し合い問題の解決にあっている。 ホームの玄関には苦情窓口として国保連の連絡先が掲示されていたが、重要事項説明書にはホームの苦情受付者しか記載がなかった。	○	重要事項説明書にもホーム以外の苦情受付窓口を記載が望まれます。また苦情受付から解決・改善までの経過と結果が分かる受付簿等を整備され、職員間における苦情等の共有化に役立ててみられたらいかかでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がある場合、新旧職員の引き継ぎ期間を充分にとり入居者への影響を防いでいる。(家族アンケートでは異動等の説明がなかったとのことであったが)介護支援専門員の離職があり、家族には電話で連絡、また新任の介護支援専門員が約2週間かけて全家族宅を訪問しあいさつを行い、家族とのコミュニケーションに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の個別面接から2名研修担当者が必要に応じて各種研修をコーディネートしている。研修後は研修報告書の回覧及び職員会議で伝達を図っている。	○	新任職員・中堅職員など職員の一人ひとりの経験や習熟度等に応じ、段階的な研修参加・年度計画等の取り組みが望まれます。詳細な業務に関する手順書はないとのことでしたので、新任の職員のためにもまた、業務を振り返る意味でも作成されてみてはいかかでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、相互研修等によりケアの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの入居ではなく、事前にホームを見学していただき安心感が持てるように努めている。また入居前に使用していた生活用品の持込を依頼するなど、ホームの生活に慣れていただけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に生きる」を念頭に置きながら、できる範囲内で掃除や食事の用意をしてもらうなど、職員もグループホームの特性を活かし安心して暮らしていただけるよう日々のケアにあたっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活や好み等を把握し、入居者の生活歴等を記載したフェースシートを使い、その共有化に努めるようにしている。	○	センター方式等を学びながら独自のフェイスシート等を作成して行きたいとのことであったので、今後の取り組みに期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当が利用者・家族の意向を、また毎日にミーティングや職員会議、申し送りノートを活用して職員の意見を取り入れて作成している。作成時には介護計画の複写を家族に渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時期は6ヶ月に1回ではあるが、日々の状況で気づいた点を毎日のミーティングで話し合い、また月1回の職員会議で確認や見直すなど状態の変化に応じて随時見直しを行っている。また、今後は計画作成担当が2ヶ月に1回アセスメント見直し予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	契約にて看護師を配置して医療連携体制の指定を受け、緊急時の対応等入居者の状況にあわせた援助を行っている。希望に応じて受診や買い物等の外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に入居前に話し合い、かかりつけ医を変更するか否か本人や家族に意向を確認し適切な医療が受けられるよう支援している。ホームの協力医の訪問診察をに2週間1回受けている。希望に応じて受診の外出支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	様態の変化に応じて、家族と話し合い確認しどのように支援していくか全職員で方針を共有していることであったが、具体的な対応指針は確認できなかった、今後職員間で対応指針を検討する予定である。	○	今後の方針について利用者や家族の意向を聞き、検討していくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者が他の職員に対してミーティングなど折に触れ言葉かけの大切さを指導し、日常的にも一人ひとりの思いを大切にゆっくりとした会話、傾聴を心がけている。	○	重要事項説明書には秘密保持に関する項目がなかったので記載が望まれます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の予定は組まれているが、散歩や入浴などその日の入居者の希望に配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に意見を聞きながら日々の献立を作っている。食事の準備や後片付けは入居者と職員が一緒に行い、職員も入居者と同じものを食べている。食事の前にその日の出来事(記念日など)を話したり、食事中も食べ残しがないようさりげなく声掛けしながら配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴時間は決められているが、就寝前など入浴希望があれば応じるなど、一人ひとりの意向に沿って入浴できるよう支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の取り込みや食事の準備などできそうな仕事はお願いしするなど一人ひとりの役割等を職員が作り出す支援を行っている。(訪問調査中に抹茶を点てる趣味の入居者が調査員に抹茶を点てて下さったが、職員もそれをさりげなく援助していた)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や畑に出かけたり、また外食、美術館(入居者が新聞で美術館での催事を知り希望者を募り出かけたり)、ドライブに出かけるなど積極的に戸外に行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵は掛けず(玄関にセンサーを設置)、一人ひとりの状態を把握してさりげない見守りや声掛けをして対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度はまだ消防訓練は行われていないが、食堂裏の避難路を確保するために整備、消防設備会社と連携して火災報知器の点検や機器操作法を学んでいる。	○	地震等を想定した訓練等、消防署との連携を大切にすることも重要ですが、非常時に地域の協力が得られるよう自治会や運営推進会議で協力を呼びかけてみてはどうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量はチェック表を用いて毎日記録を行っている。飲食量が少ない場合には、看護師に助言してもらい低下を防いでいる。	○	保健所で開催される栄養セミナーに参加して食事について学んでいるとのことですので、保健所等と連携して定期的な栄養の助言をしてもらうなどして日々の栄養改善に役立ててみてはどうでしょうか。
あど					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は天窓から採光を取り入れた造りになっており、全体的に明るい雰囲気を醸しだしている。玄関を入るとすぐにソファセットとテーブルセットが置かれ、入居者の書画や季節に応じた絵など飾られおり入居者が思い思いに過ごせるくつろぎの場所になっている。トイレの照明など間違わないよう使用方法が表示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側も家族に自宅で使っていた馴染みの日用品等をもってきていただくようお願いし、自宅との違いの不安等を解消できるように努めている。居室には人形やダンスなど使い慣れた馴染みの生活用品が持ち込まれていた。		